

平成 28 年茨城県教育研修センター第 2 回外部評価委員会記録

日 時	平成28年10月26日（水曜日） 午後 1 時30分から午後 3 時00分まで
場 所	茨城県教育研修センター第 1 研修室
出 席 者	<p>○外部評価委員</p> <p>生越 達 委員 橋本 昭彦 委員 渡辺 裕人 委員 関 洋一 委員 稲見 和子 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター</p> <p>所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 市毛 栄 副参事兼企画管理課長 原 修一 教科教育課長 川村 始子 情報教育課長 川嶋 正人 教育相談課長 柴山 優子 特別支援教育課長 大川 行彦 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 所長あいさつ</p> <p>3 研修講座紹介</p> <p>4 研修講座参観</p> <p>(1) 若手教員〔初任者〕研修講座（小学校）：情報教育分野</p> <p>(2) 発達障害等のある児童生徒への指導法（発展）研修講座</p> <p>5 研修講座に関する意見交換等</p> <p>6 その他</p> <p>7 閉会</p>

- 1 開会
- 2 所長あいさつ
- 3 研修講座紹介
センタートップページに掲載した研修の様子を閲覧
- 4 研修講座参観
 - ・若手教員〔初任者〕研修講座（小学校）：情報教育分野
 - ・発達障害等のある児童生徒への指導法（発展）研修講座

5 研修講座に関する意見交換等（○は委員，●は事務局を表す）

教育研修センター（以降，センター）研修講座参観後，次のような質疑応答があった。

- 長期研修生は，これから研究テーマに基づいて，現地研修を行い，研究報告書をまとめて発表すると思うが，学校現場での研究実践において，「構想通りに実践できなかった」，「予期せぬことがあって計画通りにいかなかった」などの失敗例についても報告してほしい。成功例の研究報告だけでなく，失敗例であっても研究報告することが大切である。それが，学校現場への波及効果につながると思う。
- 小学校の若手教員〔初任者〕の情報教育の研修では，先生方が授業で実践する教材を作成していたが，他の人の教材を見ることも大切だと思うので，最後に発表する機会があるとよい。情報教育に関する研修は，教員研修センターにおいても実施している。本日の研修で活用したガイドブックは，文部科学省のICT活用資料に沿って作成されている。
- 小学校の若手教員〔初任者〕の情報教育の研修においては，パワーポイントによる教材作成を1時間，班ごとの模擬授業形式の発表を30分間で計画しているので，他の人が作成した教材を見ることができるよう計画している。電子データについては，希望者がいれば，CDやUSBに保存して持ち帰ることができる。
- 次期学習指導要領では，小学校段階でプログラミング学習を導入することが示されているので，センターの研修としても検討が必要と思われる。
- プログラミング教育については，小学校段階で導入するという文部科学省の方針を受け，所長の指導の下，プログラミング教育研修講座を次年度新たに設定する方向で検討している。
- 発達障害等のある児童生徒への指導法研修の研究協議は，企業研修と同様の形態で実施していた。企業研修においては，トラブル対応，相談対応など，題材を決めて数人で意見交換しながら，よりよい答えを導き出し，それを発表し合うという形態で行っている。
- 発達障害等のある児童生徒への指導法（発展）研修講座の研究協議は，次期学習指導要領にあるアクティブ・ラーニング（以降，AL）の視点を踏まえた指導法の参考になった。先日，本校において，文部科学省の講師によるAL研修を実施した。主体的・対話的な深い学びの話の中で，生徒をいかに主体的・能動的にさせるかは，先生方の働きかけが重要となるということであった。センターには，各研修講座において，ALの視点を踏まえた指導法を多くの先生方に伝え，学校で活用するように指導してほしい。
- ALは，大学から始まった概念であるが，センターの研修は，大学としても学ぶところがたくさんある。
今後は，研修成果や道徳研修資料等，研修で活用した資料を共有していくことが重要となる。内地留学生が作成した構想図，研修資料などの情報共有について，

センターとしての考えがあれば知りたい。

- ALの視点を踏まえた指導法については、多くの講座で行っている。受講者アンケートを見ると、グループ学習に関する情報交換が有意義であったという意見が多い。

センターでは、情報を発信していくことが大切と考えている。学校への情報発信については、授業で活用できる学習指導案や研修講座資料、研究報告書などを提供者の許可を取ってホームページに掲載しており、学校現場の先生方が情報を得られるようにしている。

- センターが広報活動に力を入れたことにより、受講者が増えたといった効果が見られたのか。

- 受講者の募集及び決定が、年度当初ということもあるので、効果について示すことができない。今年から動画、研修資料を以前よりも多くホームページに掲載している。その影響については、来年度の受講希望者数で確認したい。

- 受講希望者数を増やすには、ホームページに講座の様子の資料や動画を掲載するだけではなく、もう一つ手立てがほしい。

- 今年度は、長期研修生がどのような研究をやっているのかを掲載している。長期研修の発表会の様子もホームページに掲載しているので、次年度の長期研修の希望者が増えることを期待している。今後は、ホームページの広報活動以外でも工夫をしていきたい。

- ホームページのアクセス数のカウントに変化が見られたのか。

- 昨年9月にシステムが切り替わり、アクセス数のカウント方法が異なってしまった。今年度と次年度の比較は可能だが、今年度と昨年度の比較ができないのが残念である。

6 その他

外部評価委員会の今後のスケジュールについて（熊田次長）

7 閉会